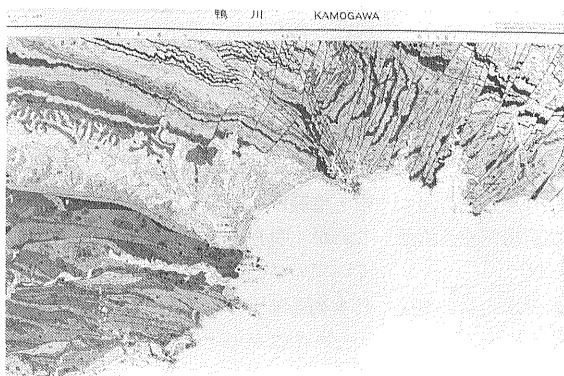


5万分の1地質図幅の新刊

鴨川

KAMOGAWA

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著者 中嶋輝允 牧本 博 平山次郎 徳橋秀一

発行 工業技術院 地質調査所

取扱先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

- 本地域は 太平洋の荒波が押し寄せる房総半島の東南部に位置し 主に古第三紀以降の堆積岩が分布している。今回 昭和54—55年度の特別研究 南関東観測強化地域の地質図幅作成の一環として地質調査が行われ 従来の研究成果を数多く取り入れて出版された。
- 本地域の中央部を東西に走る嶺岡山地は その中軸部に蛇紋岩が分布し 古くから地すべり地帯として知られている。この山地の主体をなす古第三系嶺岡層群が今回初めて地層区分されたが その構造方向(NW—SE方向)は 新第三紀以降のそれ(E—W方向)とは明らかに斜交している。
- 本地域の大部分を占める新第三系は 極めて多数の凝灰岩鍵層の設定と追跡に基づき その層序と構造が詳細に明らかにされた。その結果 本図幅では黒滝不整合より下位の新第三系を一括して新たに安房層群と命名された。すなわち 安房層群は 嶺岡層群を直接不整合で覆い 上総層群とその相当層に不整合に覆われている。
- 新第三系の層序と構造が明らかとなったため 嶺岡山地をはさんだ南北両側に分布する新第三系の 地層の褶曲や断層の発達の様子など地質構造の違いが明確に浮きばりにされている。また 本地域北東部を中心

とした新旧2つの時期の断層系も その変位の実態が断面図も含めて明瞭に表現されている。

- 本地域では 以上の堆積岩類のほか 嶺岡山地を中心に玄武岩・斑れい岩が活動し 結晶片岩の露出も見られ 古第三紀以後の構造発達史を考える上で重要な地域である。
- 嶺岡山地の北に東西に広がる加茂川低地は 古くから地溝地形とされてきた。しかし 今回の調査では地質図上に表現しうるような断層の存在は確認されず この地形の形成は 主に岩質の差に基づく差別的浸食作用によるとされている。
- 本図幅の特徴をひと言でいえば 詳細な鍵層追跡のもとに地質図を作製するという立場が貫かれたことである。この精度の高い地質図をもとに これからさまざまな分野で研究が進められることが期待される。

地質ニュース	第326号	10月号
	定価 ¥540	千実費
昭和56年10月1日	発行	
編集	工業技術院	地質調査所
発行人	林 久	雄
発行所	株式会社 家業公報社	
印刷	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03)263-0951 (代表)	
	振替口座東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	